

千葉県で野鳥の糞便から 鳥インフルエンザウイルスの遺伝子が検出されました！

概要

- ・ 11月20日に、千葉県長生郡長柄町で採取されたカモ類の糞便(11月18日に採取)から **H5N8亜型**の鳥インフルエンザウイルス遺伝子が検出されました(現在、病原性を検査中)
- ・ 同日、採取地周辺10km圏内を野鳥監視重点区域に指定し、野鳥監視の強化を継続して実施中です



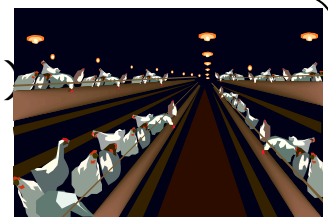
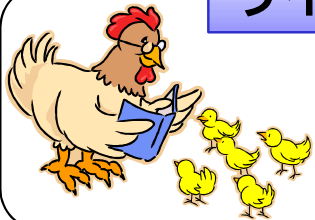
11月に入り、日本各地(鳥取県、東京都、宮城県)において、野鳥(オオハクチョウ、ホオジロ、カモ類)からウイルスの遺伝子が検出されています。

大陸から飛来する渡り鳥によってインフルエンザウイルスを持ち込まれ、野鳥等を介して養鶏場にウイルスを伝播することが危惧されます。

野鳥と接触がないように、鶏舎・防鳥ネットの点検・補修をお願いします

ウイルス侵入防止のため、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします

野鳥の鶏舎内への侵入防止(鶏舎・防鳥ネット等の破損状況の再確認)
畜舎に出入りする際の長靴や手指等の消毒と衣服の交換
農場出入り車両等の消毒



鶏の急な死亡率の増加など、異常がみられる場合はすぐに家畜保健衛生所までご連絡下さい。